

## 氷雪の富士登山とシリアイゼン

立教高校山岳部長

富士登山 愛好家 大貫金吾

今年の5月から6月にかけて日曜毎に、私のシリアイゼンのことが新聞紙上に掲載された。5月27日の朝日新聞静岡版、6月10日の日刊静岡、17日の静岡新聞と三回も報道されたため、いづれも製品化されるかとの問い合わせも何件かあった。いよいよ富士山も氷雪に覆われ魅力のある姿に変貌する。積雪期の富士に登る人達の安全のために少しでも役立てばと思いシリアイゼンを紹介します。

シリアイゼンとは氷雪の斜面における滑落防止のために、アイゼンを臀部にとりつけた登山道具とでも思ってもらいたい。ドイツ語ならばゲッゼース（臀部）・アイゼン。英仏混語でヒップ・クランポンと言うべきか。山仲間達が、皆にわかりやすく「シリアイゼン」と名付けてくれた。アイゼンの取り付け方として、ズボンの臀部に装着したものと、ハーネス型にしたものを試作したが、種々の面でハーネス型の方が評判がよいので、ハーネス型を世に出そうと取り組んでいるところです。

シリアイゼンは、始め富士山のスキー滑降のために考えたのですが、出来上がってみると、積雪期の富士山を安全に登るために、必要不可欠な道具であることを発見した。今まで何人もの人達が滑落し、そのたびに「死の滑り台」と報道され、警告されてきた。いままでそれを技術の向上と熟練だけで乗り越えてきた。どんなエキスパートでも絶対大丈夫だ、ということは有り得ない。大自然には人知を越えた現象が起こるのを知るべきである。

車にシートベルトが義務づけられている。確かに装着しているときの事故による死亡率は減少した。このシリアイゼンは雪山（特に富士山）における安全ベルトであるばかりでなく安全シートにもなる。

シリアイゼンが完成してから私の目標（91年正月に100回目達成の予定）の富士登山回数も急激に増えた。89年の10月から90年の6月まで氷雪の富士を16回も登ってしまった。凄い助っ人があるからである。この内3回はスキーで頂上から滑降ができた。このシリアイゼンは登るときにも役立っている。どんな斜面でも腰を降ろして休めるため、いろんなルートを直登することができた。また、50度以上の垂壁では実験してないが、大概の斜面でピッケルよりは、確実に滑落停止が出来ることが分かってきた。冬富士を登り続ける私に、なくてはならぬ道具になってしまった。

シリアイゼンは目下、アイゼンメーカーの梶田製作所と、テントの細野商店の協力で40台だけ限定製作中です。ご希望の方は下記に問い合わせてください。

静岡県駿東郡小山町須走17-39 東富士山荘 電話0550-75-2113 米山千晴  
埼玉県新座市東3-3-23 電話0484-72-2339 大貫金吾